

平成29年度
教育に関する事務の管理及び執行の
点検及び評価報告書

平成30年8月21日
長岡市教育委員会

教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価について

1 点検及び評価の趣旨

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、平成20年度から教育委員会は毎年度、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することが義務づけられました。

本報告書は、効果的な教育行政の推進を図るとともに、市民への説明責任を果たすために、平成29年度の長岡市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行った結果を、長岡市教育委員会事務評価委員会の意見等を付して、報告するものです。

【参考】地方教育行政の組織及び運営に関する法律（関連条文抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検及び評価の方法

(1) 点検及び評価の対象

点検及び評価は、長岡市教育委員会が執行している事務・事業のうち、「長岡市教育振興基本計画」（平成28年4月策定）に掲げた施策を中心に行いました。

(2) 点検及び評価の手順

平成30年4月から8月にかけて、平成29年度に長岡市教育委員会において執行した事務について、次の手順で点検及び評価を行いました。

教育委員会事務局における点検の実施



教育委員への点検内容の報告



事務評価委員会による点検及び評価



教育委員会による評価報告書の決定



市議会への報告及び公表

長岡市教育委員会事務評価委員会 委員

委員長 青柳 良一（学校教育・社会教育関係）

副委員長 渡辺 美子（学校教育関係）

委員 高野 真規（子育て支援関係）

【目 次】

I 教育委員会会議の開催及び審議状況等について

1	教育委員会4月定例会（平成29年4月21日開催）	1
2	教育委員会5月定例会（平成29年5月30日開催）	1
3	教育委員会6月定例会（平成29年6月27日開催）	2
4	教育委員会7月定例会（平成29年7月25日開催）	2
5	教育委員会8月定例会（平成29年8月23日開催）	3
6	教育委員会9月定例会（平成29年9月29日開催）	3
7	教育委員会10月定例会（平成29年10月26日開催）	4
8	教育委員会11月定例会（平成29年11月16日開催）	4
9	教育委員会12月定例会（平成29年12月1日開催）	5
10	教育委員会1月定例会（平成30年1月23日開催）	5
11	教育委員会2月定例会（平成30年2月14日開催）	5
12	教育委員会2月臨時会（平成30年2月27日開催）	6
13	教育委員会3月定例会（平成30年3月23日開催）	6
14	施設訪問	8
15	教育委員会協議会	8
16	総合教育会議	8
○	教育委員会会議等に関する点検・評価及び今後の取組等	9

II 教育委員会における事務の点検・評価について

1	郷土愛の醸成による人材の育成	10
1)	郷土長岡を学ぶ教育活動の推進（学校教育課）	10
2)	米百俵の精神の普及・伝承による人材の育成と発信の場の創出 （教育総務課・中央図書館）	10
3)	縄文文化・火焰土器関連遺産の活用及び発信（科学博物館）	11
4)	歴史的・文化的遺産の継承及び保全・活用促進（科学博物館）	11
5)	豊かな自然・歴史・文化に触れる機会の提供と個性輝く子どもたちの育成 （科学博物館）	12
6)	歴史資料の適切な保存・管理と資料の収蔵及び公開のできる文書館 （仮称）の整備（中央図書館）	13
7)	長岡空襲の歴史の継承と平和学習の推進などによる平和意識の醸成 （学校教育課）	13
8)	子ども会や地域活動のリーダー育成など、青少年の健全育成活動の推進 （青少年育成課）	13

2	子ども・子育て支援の充実	14
1)	乳幼児や妊産婦への支援の充実（子ども家庭課）	14
2)	特別な支援が必要な子どもや家庭への施策の充実 （学務課・子ども家庭課・保育課）	15
3)	子育て家庭への経済的支援の充実（学務課・保育課）	17
4)	多様な働き方の実現及び働きながら子育てできる環境づくり （子ども家庭課・保育課）	17
5)	保育サービスの充実、保育環境の整備及び保育士の確保 （教育施設課・保育課）	18
6)	放課後の児童の預かりサービスの充実（青少年育成課）	19
7)	多世代の交流、市民協働、企業との連携による地域全体で子育てを支援する体制づくり（子ども家庭課）	20
8)	保護者対象の講座の実施など家庭教育への支援 （子ども家庭課・青少年育成課）	21
9)	これから親になる世代に「いのち」の大切さ、子育ての楽しさ、喜びを伝える施策の充実（子ども家庭課）	22
3	質の高い教育の推進	22
1)	熱中！感動！夢づくり教育の推進（学校教育課）	22
2)	どの子にも分かる授業の実現（学務課・学校教育課）	23
3)	地域の力、市民の力を生かした教育の推進（学校教育課）	24
4)	「熱中する」「感動する」「夢につながる」熱中・感動体験の充実 （学校教育課）	26
5)	学校施設の計画的な改修などによる、安全・安心で快適な教育環境の整備 （教育施設課）	27
6)	通学路における児童・生徒の安全確保（学校教育課）	27
7)	食物アレルギー対応の充実などによる健康で安全な学校生活の推進 （学務課）	28
8)	子ども、保護者、学校・教職員などへのサポート体制の充実 （学校教育課）	28
9)	特別な支援を要する子どもへの支援体制の整備とインクルーシブ教育システムの充実（学校教育課）	29
10)	私学の振興と家庭の教育費負担軽減（学務課）	30
11)	長岡市SNSセーフティープログラムに関する取組 （学校教育課・子ども家庭課・保育課・青少年育成課）	30
4	生涯にわたるまなびの場の充実	32
1)	市民主体の生涯学習の推進、学習環境の効果的な整備 （中央図書館・科学博物館）	32
2)	民間活力を基にした互尊文庫創設の精神を継承し、新たなまちなか図書館を整備（中央図書館）	33
3)	市民の主体的・創造的な文化芸術活動への支援（中央図書館）	33
●	教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価について	34

I 教育委員会会議の開催及び審議状況等について

平成29年度に教育委員会定例会を12回、臨時会を1回開催した。46件の議案を審議し、協議報告事項は80件であった。また、施設訪問を9回実施し、15か所で授業参観・職員懇談・給食試食及び施設内視察を行った。さらに、教育委員会協議会を4回、総合教育会議を1回開催した。

審議の結果は、以下のとおりである。

1 教育委員会4月定例会

- 日 時 平成29年4月21日（金曜日）
午後4時から午後4時40分まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 1人
- 議 事 1件

議案第22号	附属機関委員の委嘱について	原案決定
--------	---------------	------

- 協議報告事項 5件
 - ・教育委員会関係工事等の入札状況について
 - ・小国小学校の開校について
 - ・平成28年度中学2年生のピロリ菌検査実施結果について
 - ・長岡版ネウボラの拡充について
～妊娠・出産から育児まで切れ目のない子育て支援～
 - ・平成29年度長岡市成人式について

2 教育委員会5月定例会

- 日 時 平成29年5月30日（火曜日）
午後1時30分から午後2時40分まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 1人
- 議 事 3件

議案第23号	条例改正の申出について（長岡市立学校使用条例の一部改正）	原案決定
議案第24号	補正予算の要求について	原案決定
議案第25号	附属機関委員の委嘱について	原案決定

- 協議報告事項 7件
 - ・教育に関する事務の点検及び評価方法について
 - ・平成29年度全国学力・学習状況調査問題及び長岡市教育委員会分析の概要について
 - ・寺泊地区保育園の再配置について
 - ・長岡市放課後児童健全育成事業運営費補助金交付要綱の一部改正について

- ・平成29年度長岡市成人式（5月3日開催分）について
- ・平成28年度「広めよう！市P連ルール啓発標語コンテスト」について
- ・オーストラリアクイーンズランド州競泳チーム事前キャンプ受入れ及び交流事業の実施について

3 教育委員会 6月定例会

- 日 時 平成29年 6月27日（火曜日）
午後 2時50分から午後 4時20分まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 2人
- 議 事 3件

議案第26号	長岡市立学校分校設置規則の廃止について	原案決定
議案第27号	長岡市立保育園条例施行規則の一部改正について	原案決定
議案第28号	附属機関委員の委嘱について	原案決定

- 協議報告事項 6件
 - ・ 6月議会における教育委員会関係の質問事項について
 - ・ 教育委員会関係工事等の入札状況について
 - ・ 平成29年度熱中！感動！夢づくり教育「地域・子ども元気塾助成事業」について
 - ・ 平成29年度熱中！感動！夢づくり教育「学校・子どもかがやき塾 夢企画事業」について
 - ・ 平成29年度思春期向け次代の親育成事業の実施計画について
附属機関会議報告について
 - ・ 第1回長岡市栃尾美術館協議会報告

4 教育委員会 7月定例会

- 日 時 平成29年 7月25日（火曜日）
午後 1時15分から午後 2時10分まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 0人
- 議 事 3件

議案第29号	長岡市立学校通学区域規則の一部改正について	原案決定
議案第30号	長岡市教職員住宅管理運営規則の一部改正について	原案決定
議案第31号	平成30年度使用教科用図書の採択について	原案決定

- 協議報告事項 6件
 - ・ 平成28年度長岡市の児童生徒の問題行動等について
 - ・ 子育てあんしん支援者養成講座について
 - ・ 男性保育士研修会実施報告について

- ・平成29年度ポニー事業について
- 附属機関等会議報告について
 - ・第1回長岡市図書館協議会報告
 - ・第1回長岡市水族博物館協議会報告

5 教育委員会 8月定例会

- 日 時 平成29年 8月23日（水曜日）
午後 3時10分から午後 4時32分まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 1人
- 議 事 4件

議案第32号	平成28年度教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価報告書について	原案決定
議案第33号	条例改正の申出について（長岡市立学校使用条例の一部改正）	原案決定
議案第34号	補正予算の要求について	原案決定
議案第35号	長岡市教育委員会表彰被表彰者の決定について	被表彰候補者全員適と決定

- 協議報告事項 6件
 - ・平成29年度全国学力・学習状況調査結果概況について
 - ・第1回第二次長岡市子ども読書活動推進計画策定委員会報告について
 - ・幼保小連携研修会の実施報告について
 - ・全国大会等出場選手激励会の開催について
 - ・第56回1000万人ラジオ体操・みんなの体操祭開催報告について
 - 附属機関会議報告について
 - ・第1回長岡市子ども・子育て会議報告

6 教育委員会 9月定例会

- 日 時 平成29年 9月29日（金曜日）
午後 1時50分から午後 3時30分まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 0人
- 議 事 3件

議案第36号	長岡市立学校使用条例施行規則の一部改正について	原案決定
議案第37号	附属機関委員の委嘱について	原案決定
議案第38号	長岡市教育委員会表彰被表彰者の決定について	被表彰候補者全員適と決定

- 協議報告事項 7件

- ・ 9月議会における教育委員会関係の質問事項について
- ・ 教育委員会関係工事等の入札状況について
- ・ 平成29年度全国学力・学習状況調査結果分析と長岡市教育委員会としての取組について
- ・ 長岡市保育士等のキャリアアップ構築のための人材交流等支援事業費補助金交付要綱の一部改正について
- ・ 親も育つ子育てセミナー幼児期コース実施報告について
- ・ オーストラリア競泳チームの小中学生への実技指導等について
附属機関会議報告について
- ・ 第1回長岡市文化財保護審議会報告

7 教育委員会10月定例会

- 日 時 平成29年10月26日（木曜日）
午後2時30分から午後3時25分まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 1人
- 議 事 2件

議案第39号	長岡市立学校通学区域規則の一部改正について	原案決定
議案第40号	長岡市教育委員会表彰被表彰者の決定について	被表彰候補者全員適と決定

- 協議報告事項 4件
 - ・ 総合教育会議の開催について
 - ・ 小学校統合に向けた状況報告について
 - ・ 平成29年度第1回熱中！感動！夢づくり教育推進会議会議報告について
 - ・ 「家庭でワクワクお手伝いポスターコンクール」審査会結果について

8 教育委員会11月定例会

- 日 時 平成29年11月16日（木曜日）
午後1時から午後2時25分まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 0人
- 議 事 2件

議案第41号	補正予算の要求について	原案決定
議案第42号	指定管理者指定の申出について	原案決定

- 協議報告事項 3件
 - ・ 平成30年度新規事業等について
 - ・ 長岡市の学校給食費の状況について
 - ・ 平成29年度子育てあんしん支援者養成講座について

9 教育委員会12月定例会

- 日 時 平成29年12月 1 日（金曜日）
午前10時から午前11時55分まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 0人
- 議 事 1件

議案第43号	平成30年度当初予算の要求について	原案決定
--------	-------------------	------

- 協議報告事項 1件
 - ・平成29年度パパ向け講座実施報告について

10 教育委員会 1 月定例会

- 日 時 平成30年 1 月23日（火曜日）
午後 2 時30分から午後 4 時まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 0人
- 議 事 1件

議案第 1 号	長岡市学校通学区域規則の一部改正について	原案決定
---------	----------------------	------

- 協議報告事項 10件
 - ・12月議会における教育委員会関係の質問事項について
 - ・教育委員会関係工事等の契約変更について
 - ・平成29年度12月補正予算の要求取下げについて
 - ・平成29年度長岡市の子どもたちの体力について
 - ・平成30年度全国学力・学習状況調査の参加について
 - ・平成28年度児童生徒の問題行動等の現状について（県・国との比較）
 - ・平成29年度文部科学大臣優秀教職員表彰について
 - ・長岡市スポーツ推進委員・スポーツ普及員の改選（委嘱）について
附属機関等会議報告について
 - ・第 2 回長岡市栃尾美術館協議会報告
 - ・長岡市馬高・三十稻場遺跡整備活用委員会報告

11 教育委員会 2 月定例会

- 日 時 平成30年 2 月14日（水曜日）
午前 9 時30分から午前10時45分まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 0人
- 議 事 8件

議案第 2 号	専決処理について（補正予算の要求について）	原案決定
---------	-----------------------	------

議案第3号	条例廃止の申出について（長岡市高等学校入学準備金貸付条例の廃止）	原案決定
議案第4号	条例改正の申出について（長岡市地域資料館条例の一部改正）	原案決定
議案第5号	条例改正の申出について（長岡市保育園条例の一部改正）	原案決定
議案第6号	条例改正の申出について（長岡市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部改正）	原案決定
議案第7号	長岡市立学校通学区域規則の一部改正について	原案決定
議案第8号	補正予算の要求について	原案決定
議案第9号	長岡市教育委員会表彰被表彰者の決定について	被表彰候補者全員適と決定

○ 協議報告事項 4件

- ・平成30年度長岡市教育委員会当初予算の概要について
- ・第2回第二次長岡市子ども読書活動推進計画策定委員会報告について
- ・平成29年度思春期向け次代の親育成事業報告について
- ・「保育所保育指針」「幼稚教育要領」「認定こども園教育・保育要領」の改定について

12 教育委員会 2月臨時会

- 日 時 平成30年2月27日（火曜日）
午後2時40分から午後3時5分まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 0人
- 議 事 1件

議案第10号	校長、教頭の人事異動の内申について	原案決定
--------	-------------------	------

○ 協議報告事項 1件

- ・平成29年度長岡市学校教育の共通実践事項の実践状況について

13 教育委員会 3月定例会

- 日 時 平成30年3月23日（金曜日）
午後1時30分から午後3時50分まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 1人
- 議 事 14件

議案第11号	専決処理について（職員人事について）	原案承認
議案第12号	補正予算の要求について	原案決定
議案第13号	長岡市高等学校入学準備金貸付条例施行規則の廃止について	原案決定
議案第14号	長岡市立学校管理運営に関する規則の一部改正について	原案決定

議案第15号	長岡市地域資料館条例施行規則の一部改正について	原案決定
議案第16号	長岡市子どものための教育・保育給付の支給認定に関する規則の一部改正について	原案決定
議案第17号	長岡市児童手当法施行細則の一部改正について	原案決定
議案第18号	長岡市青少年育成センター運営規程の一部改正について	原案決定
議案第19号	長岡市教育委員会非常勤嘱託員の任用等に関する要綱の一部改正について	原案決定
議案第20号	長岡市不登校児童生徒適応指導教室設置要綱の一部改正について	原案決定
議案第21号	長岡市ファミリー・サポート・センター事業実施要綱の一部改正について	原案決定
議案第22号	長岡市地域子育て支援センター事業実施要綱の一部改正について	原案決定
議案第23号	長岡市放課後児童健全育成事業実施要綱の一部改正について	原案決定
議案第24号	附属機関委員の委嘱について	原案決定

○ 協議報告事項 20件

- ・ 3月議会における教育委員会関係の質問事項について
- ・ 第2回熱中！感動！夢づくり教育推進会議報告について
- ・ 平成30年度米百俵のまち長岡「熱中！感動！夢づくり教育」の概要について
- ・ 平成29年度長岡市の子どもたちの体力について
- ・ 長岡市が制定する要綱の制定、一部改正及び廃止について

【制定】

- ・ 長岡市私立認可保育所等地域子育て支援センター事業補助金交付要綱
- ・ 長岡市一時預かり事業（幼稚園型）補助金交付要綱
- ・ 長岡市私立認可保育所等地域活動事業補助金交付要綱

【一部改正】

- ・ 長岡市立学校遠距離通学児童生徒通学支援及び通学費補助金の交付等に関する要綱
- ・ 長岡市私立認可保育所等運営費補助金交付要綱及び長岡市私立幼稚園等運営費等補助金交付要綱
- ・ 長岡市私立認可保育所等障害児保育環境改善事業実施要綱
- ・ 長岡市私立認可保育所等延長保育促進事業補助金交付要綱
- ・ 長岡市私立幼稚園等障害児教育費補助金交付要綱

【廃止】

- ・ 長岡市地域・子ども元気塾助成金交付要綱

附属機関会議報告について

- ・ 長岡市公立学校通学区域審議会
- ・ 第2回長岡市図書館協議会
- ・ 第2回長岡市文化財保護審議会
- ・ 第2回長岡市寺泊水族博物館協議会
- ・ 第3回長岡市子ども・子育て会議
- ・ 長岡市スポーツ推進審議会

14 施設訪問

○ 15か所を訪問

【内訳】 保育園 2、小学校 6、中学校 2、その他施設 5

- (1) 平成29年 5月30日（火曜日）
恵和めぐみキッズランド、みしま中央保育園
- (2) 平成29年 6月27日（水曜日）
北辰中学校、桂小学校
- (3) 平成29年 7月25日（火曜日）
双葉寮
- (4) 平成29年 8月23日（水曜日）
寺泊水族博物館
- (5) 平成29年 9月29日（金曜日）
希望が丘小学校
- (6) 平成29年10月26日（木曜日）
子育ての駅みしま、子育ての駅よいた、子育ての駅わしま
- (7) 平成29年11月16日（木曜日）
大島小学校
- (8) 平成30年 1月23日（火曜日）
関原中学校、深沢小学校
- (9) 平成30年 2月27日（火曜日）
青葉台小学校、日越小学校

15 教育委員会協議会

○ 4回開催

- (1) 平成29年 6月27日（火曜日）教育委員会会議室
・平成28年度教育に関する事務の管理、執行の点検及び評価について
- (2) 平成29年 8月23日（水曜日）教育委員会会議室
・長岡市公立保育園の再編等について
- (3) 平成29年10月26日（木曜日）教育委員会会議室
・長岡市公立保育園民営化の検証結果について
- (4) 平成29年11月16日（木曜日）教育委員会会議室
・平成29年度総合教育会議について

16 総合教育会議

○ 1回開催

- 平成29年11月22日（水曜日）アオーレ長岡東棟 4階 第二応接室
- ・部活動指導のあり方について
 - ・子どもの貧困対策について

＜教育委員会会議等に関する点検・評価及び今後の取組等＞

- 会議において、教育や子育て支援に関する新制度の概要や児童生徒の現況を速やかに報告するなど、教育委員と教育委員会事務局の情報共有を進め、審議の活性化に努めた。会議では、議案及び協議報告事項に対し、各委員から積極的な発言があり、十分な審議がなされた。
- 会議録はホームページで公開しており、協議報告事項なども詳しく掲載し、審議の透明性を高めている。
- 定例会は、あらかじめ年間計画を立てて開催し、さらに定例会の日程に合わせて施設訪問を実施することにより、教育委員全員が参加することができた。
- 学校訪問では、生徒指導や学力など学校運営上の課題を詳細に聞き取り、現場の状況を把握することに努めた。また、学校との意見交換では、より良い学校づくりに向け、訪問校ごとに教育活動の目標や課題をテーマとして設定し、より深い議論ができた。
- 各委員は成人式や表彰式などの教育委員会行事、各課の実施事業、学校の周年行事に積極的に出席した。また、文部科学省などが開催する研修会にも積極的に参加し、国の動向や他自治体の取組などについての理解を深めた。
- 教育委員の意見を教育行政により反映させるため、教育委員会協議会を開催した。協議会では、テーマ別に活発な意見交換を行い、各課の施策立案に反映した。
- 総合教育会議では、長岡市の教育政策における重要課題である「部活動指導のあり方」と「子どもの貧困対策」の2つのテーマについて意見交換を行い、市長と教育委員会が今後の方向性を共有することができた。
- 平成27年度に策定した教育大綱の基本理念・基本方針を踏まえて策定した長岡市教育振興基本計画を具体的な施策の指針とし、長岡の未来を担う子どもたちのために教育と子育て支援の一貫した施策をさらに推進していく。

II 教育委員会における事務の点検・評価について

平成28年4月に策定した「長岡市教育振興基本計画」に定めた施策を中心に点検・評価を行った。

具体的には、各章ごとの「施策の内容」について、平成29年度における取組内容等を点検・評価したものである。

点検・評価の結果は、以下のとおりである。

1 郷土愛の醸成による人材の育成

1) 郷土長岡を学ぶ教育活動の推進（担当：学校教育課）

<平成29年度の取組>

○郷土長岡を語る「ながおか学」の冊子を小学校5年生全員に配布するとともに、各校が実践している活用方法を紹介する取組を行った。平成29年度は、大幅改訂を行い、学びのきっかけづくりを充実させた。特に写真やイラストを用い、見やすく楽しめるような構成を心がけた。さらに、支所地域の内容も充実させた。また、地域の方々からも手にとって学んでいただけるように書店での販売も行った。

○学校・子どもかがやき塾夢企画事業等を活用し、学校、家庭、地域、NPO等が連携し、子どもの継続的な体験活動の場の充実に努め、ふるさとへの愛着と誇りを育む教育活動に全校が取り組んだ。

<成果及び今後の取組等>

○「ながおか学」の大幅改訂により、見やすく活用しやすくなったとの評価を多方面からいただいております。冊子の購入や公共施設への配置について要望を受けている。今後も児童生徒及び教職員はもとより、広く市民に活用していただけるよう冊子の設置や頒布の方法について検討する。

○各学校が創意・工夫を凝らして地域の特色や伝統文化等について学ぶ機会を設定したり、保護者や地域、NPO等と連携したりすることで、体験活動や学習活動の充実を図り、やる気や学ぶ意欲を引き出すことにつながった。

○保護者や地域の方を招いた発表会や市内外への発信活動を通して表現力や自信を高めるとともに、ふるさとのよさや魅力を再発見しながら愛着や誇りを育んだ。

2) 米百俵の精神の普及・伝承による人材の育成と発信の場の創出

（担当：教育総務課・中央図書館）

<平成29年度の取組>

○次世代に米百俵の精神を伝承するため、(公財)長岡市米百俵財団との連携により、市内小学校を対象に米百俵読本やDVDアニメなどを活用した普及・啓発活動を行った。(教育総務課)

○米百俵の精神を全国に発信する拠点の整備に向け、中心市街地整備室と連携して、「米百俵プレイス（仮称）」に必要な機能などについて検討を行った。（中央図書館）

＜成果及び今後の取組等＞

○読本やDVDは、ほぼすべての学校が授業等で活用し、「子どもたちにとってわかりやすい内容だった。」、「学習資料として有効に活用できた。」、「長岡市民として知っておくべきことがわかりやすくまとめられている。」等の評価を受けた。今後も継続的に授業等での活用を呼びかけていく。（教育総務課）

○米百俵の精神の伝承・発信の方策について、複合施設の導入機能としての図書館の在り方を考える中で、今後検討していく。（中央図書館）

3) 縄文文化・火焰土器関連遺産の活用及び発信（担当：科学博物館）

＜平成29年度の取組＞

○大英博物館に貸出中の、市内の遺跡から出土した火焰型土器等のコンディションを確認するとともに、展示改修や貸出期間延長等についての協議を進めた。また、馬高縄文館で縄文文化に関する特別展や講演会を開催し、市内外への情報発信に努めた。また、外部アドバイザーを活用する取組として、開館当初より馬高縄文館の名誉館長に小林達雄氏（國學院大學名誉教授）から継続して就任いただいております、平成29年度も数々の助言とともに各媒体における情報発信に尽力してもらった。

○馬高・三十稲場遺跡の野外博物館としての機能を強化するため、環境整備の方法などについて検討を行った。また、馬高・三十稲場遺跡の活用範囲が広がるよう、史跡指定面積約15,000㎡を追加した。

○寄贈を受けた縄文関連図書の選別や目録作成などを行い、活用に向けた準備を進めた。

＜成果及び今後の取組等＞

○世界中から年間600万人が訪れる大英博物館との展示を通じた交流により、長岡の火焰型土器や縄文遺跡を世界に向けて発信することができた。今後も、長岡の歴史的遺産である火焰土器や縄文遺跡をシティプロモーションのツールと位置づけ、国内外に向けた発信を強化していく。また、信濃川火焰街道連携協議会と連携して東京オリンピック・パラリンピックの聖火台に火焰型土器のデザインを採用してもらった取組などを継続し、全国に火焰土器をPRしていく。

○縄文関係図書については、本年度の作業で総量の約20%にあたる10,000冊分の目録化を達成した。今後も引き続き作業を継続し、早期の活用を目指す。

4) 歴史的・文化的遺産の継承及び保全・活用促進（担当：科学博物館）

＜平成29年度の取組＞

○歴史的建造物を紹介する冊子の配布やホームページでの公開を通して、継続して情報を発信した。

○国重要文化財「旧長谷川家住宅」において、長谷川家第10代当主・久家の注文により襖絵として制作された「墨堤春色図」の高精細複製画を、襖絵の状態に特別に公開したほか、「髪結@長谷川邸」の企画や長岡市指定文化財「蚊帳」の関連展示などを行い、535人の来場者があった。

○11月3日に中野東神楽伶人会ほか7団体による郷土民俗芸能公演会をアオーレ長岡で開催し、184人の来場者があった。また、インターネット上に市内民俗芸能の動画の配信や、各地域での公演日時などを載せるなど、市内外に対しての情報発信を強化した。

<成果及び今後の取組等>

○歴史的建造物についての情報発信を継続することで、今後も、その価値・魅力について伝えていく。

○文化財を活用した普及活動等を推進することで、今後も、歴史的・文化的遺産の継承及び保全・活用の促進に努める。

○WEB上での情報発信や公演会の開催などを通じて、今後も、多くの市民に民俗芸能の魅力や継承・保存の大切さを伝えていく。

5) 豊かな自然・歴史・文化に触れる機会の提供と個性輝く子どもたちの育成(担当:科学博物館)

<平成29年度の取組>

○科学博物館において、特別展「春がきたら一山菜・春紅葉・草木あそび」、 「世界の昆虫展」、「生物・岩石標本展示会・自然科学写真展示会」、長岡開府400年記念「長岡藩主牧野家ゆかりのおひなさま展」等様々な分野の特別展や講演会を開催し、市民が博物館等に足を運ぶ機会を提供した。(入館者延べ29,557人)

○年間を通じて、科学博物館や馬高縄文館・寺泊水族博物館等で、市民を対象とした普及活動を行ったほか、小・中学校等に学芸員を派遣する事業を企画し、多くの学校から活用された。また、「バスで行く科博見学・体験学習」を継続実施し、小・中学生の学習機会を増やすことに努めた。(普及活動等参加者延べ7,565人)

<成果及び今後の取組等>

○科学博物館では、平成29年度に入館者、資料照会、普及活動等を併せて39,325人の利用者があった。今後も人気の高い体験学習会の機会を増やし、時宜に応じた特別展や講演会の開催を継続することで、市民が博物館を利用する機会を増やす。

○科学博物館等が企画した公演会や企画展・特別展や各種普及活動により、多くの市民に対し長岡の自然・歴史・文化に触れる機会を提供することができた。今後は、科学博物館のHPやフェイスブックなどを活用して、学校や子ども会などに体験学習等の事業とその魅力について情報発信に努めることで、さらなる博物館利用の促進につなげる。

6) 歴史資料の適切な保存・管理と資料の収蔵及び公開のできる文書館

(仮称)の整備(担当:中央図書館)

<平成29年度の取組>

- 『長岡市史双書No.57』を刊行するとともに、郷土長岡に関する歴史資料を活用して、「古文書のいろは」、「古文書に見る長岡のすがた」など歴史講座を13回開催した。
- 長岡市災害復興文庫の運営・充実に向け、国立国会図書館のデータベース(東日本大震災アーカイブ「ひなぎく」)に中越大震災の写真資料を約60点掲載した。また、市民協働で歴史資料の保存に取り組んできた長岡市資料整理ボランティアと十日町市のボランティアとの11回目の交流会を初めて県外(長野県栄村)で実施したほか、災害復興文庫展2017 企画展「震災避難所の記録と記憶」及び記念シンポジウム「あつめる・整理する・つたえる～震災復興と図書館のアーカイブ機能～」などを開催した。

<成果及び今後の取組等>

- 年間を通じて歴史資料の整理・保存・公開の取組を進め、目録作成が終了した歴史資料約1,380点を新たに公開した。
- 歴史資料整理等に延べ166人の長岡市資料整理ボランティアが参加し、市民協働の取組がより一層図られた。
- 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会(全史料協)に加盟し、引き続き全国の関係機関・団体と連携して、災害復興文庫の充実・発信に努めていく。また、文書館(仮称)の整備に向けて検討を進めていく。

7) 長岡空襲の歴史の継承と平和学習の推進などによる平和意識の醸成

(担当:学校教育課)

<平成29年度の取組>

- 冊子「ながおか学」配布時に、平和学習での活用例を全小学校に紹介した。教職員向けの研修に平和教育を位置付け、長岡空襲についての理解を深めたり、戦災資料館の活用を呼びかけたりした。

<成果及び今後の取組等>

- 戦災資料館の見学や平和劇の発表など、学校ごとに工夫した取組が行われた。今後も、児童生徒及び教職員への周知を継続する。

8) 子ども会や地域活動のリーダー育成など、青少年の健全育成活動の推進

(担当:青少年育成課)

<平成29年度の取組>

- 小学生リーダー養成事業として、寺泊地域でのサマーキャンプに54人の小学生が参加するとともに、スタッフとして中高生リーダーが14人参加した。また、青少年の健全育成を目的に組織されている4団体に補助金を支給した。さらに、市内21地域の青少年育成団体の各活動に対し活動報奨金を支給した。

○高校生に対するボランティア講座を開催し、12人が参加した。ボランティアについての学習の場や、市民が集う福祉イベントや動物に関わるイベントなどのボランティア活動、経験豊富な活動実践者との交流を通じて、社会参加の大切さを学ぶ機会を提供した。

<成果及び今後の取組等>

○地域間・世代間交流を通じて、小・中・高校生など各世代のリーダーを養成した。また、団体への補助金や活動報奨金の支給により、市全域及び各地域における青少年育成活動の更なる発展に寄与した。今後も、地域の青少年育成団体等と連携しながら、事業の拡充を図る。

○ボランティア講座の受講により、高校生が障害者スポーツの体験補助や動物と触れ合う子どもたちへの補助など、実際のボランティア活動の実践を通じて充実感や達成感を感じることで、高校生のボランティアに対する意識の更なる醸成につながり社会参加の足がかりとなった。

2 子ども・子育て支援の充実

1) 乳幼児や妊産婦への支援の充実（担当：子ども家庭課）

<平成29年度の取組>

○産後ケアコーディネーターを2人配置し、産前産後のサポートをきめ細かく実施した。

- ・産後デイケア一む「ままりら」※ 418回実施 延べ1,419人利用
- ・産後デイケア一む「ままナビ」※ 193回実施 延べ 586人利用
- ・「ままのまカフェ」※ 189回実施 延べ1,739人利用
- ・産後ケア訪問 実人員2人 13回
- ・産前産後寄り添い支援訪問 実人員5人 94回

※産後デイケア一む「ままりら」・「ままナビ」、「ままのまカフェ」

妊娠から出産・育児まで切れ目ない支援を行う長岡版ネウボラの産後の主要な事業。ままりらは、産後ケアコーディネーターが保健師や助産師などと一緒に、産前及び産後の母親の心身のサポートを行う場。ままナビは、保育士から具体的な育児の仕方や保育園での過ごし方等について学ぶ場。ままのまカフェは、母子保健推進員が子どもを預かり見守る中で、保護者同士が情報交換等ゆったりとした時間を過ごしてもらう場。

○健康の保持増進のため、妊婦健康診査、4・10か月健診、1歳6か月児健診、3歳児健診、子どもの定期予防接種を行った。

○身近な地域において、母子保健推進員が妊娠期から子育て期までの切れ目ない支援を実施した。

- ・妊婦、赤ちゃん訪問活動 3,560件
- ・子育て支援活動 296回 親子3,359組 妊婦7人 その他116人

＜成果及び今後の取組等＞

- 妊娠中や出産後早期から必要な支援を提供することで、母体の健康面の不安や育児・発育に関する悩みや不安が軽減された。平成30年度は、より多くの母子のサポートを行うとともに、利用者の利便性を高めるため「ままりら」を1か所増設し、「ままナビ」を保育園併設の子育て支援センターでも実施する。
- 妊婦健診は、ほとんどの妊婦が健診受診し、安心・安全な出産につながった。
- 母子保健推進員と一緒に事業を実施したことで、母子保健推進員がやりがいを持ち、期待されていると感じて意欲的に子育て支援に取り組むようになり、地域全体で子育てを応援しようという意識が広がっている。

2) 特別な支援が必要な子どもや家庭への施策の充実

(担当：学務課・子ども家庭課・保育課)

＜平成29年度の取組＞

- 柿が丘学園において、通所による児童発達支援事業、保育所等訪問支援事業及び障害児相談支援事業等を行った。(子ども家庭課)
 - ・児童発達支援事業：契約児童数 72人 利用延数 5,162人
 - ・保育所等訪問支援：契約児童数 17人 訪問延数 56件
 - ・障害児相談支援：相談契約数 80人 計画作成 68件
モニタリング 164件
- 特別な支援が必要な乳幼児の発達に関する不安や悩みごとに応じるため、「こども発達相談室」を運営し、保育士や言語聴覚士等が対応した。(子ども家庭課)
 - ・電話・来室相談 実件数 475件
- 家庭児童相談員等が、乳幼児健診や子育ての駅等に出向いて相談を受けたり、子育てに不安を抱える母親同士のグループ支援活動を行ったりするなど、相談しやすい環境づくりに努めた。また、長岡市要保護児童対策地域協議会の関係機関が連携して、支援が必要な子どもや保護者に対し、適切な対応を行った。(子ども家庭課)
 - ・相談対応(新規相談のみ) 実件数 355件(うち児童虐待89件)
- 保育園・幼稚園・認定こども園等に在籍している特別な支援が必要な子どもに対する訪問支援「こどもすこやか応援事業」を実施し、在籍園とその保護者に対する支援を行った。(子ども家庭課)
 - 支援児童数 178人 支援施設数 61園 支援延数 365件
- 就学前から就学後まで継続した児童支援のための「すこやかファイル」作成や小学校へのファイルの引継ぎを支援した。(子ども家庭課)
 - 作成児童数(全年齢) 72人 就学期引継児童数 76人

○発達障害に関する理解と支援のために、保育士・幼稚園教諭・保育教諭・保健師・関係職員のほか、在園児の保護者（児の障害の有無に関わらず）にも対象を拡大した研修会を実施した。（子ども家庭課）

・7月8日（土）参加者（支援者・保護者） 422人

・11月7日（火）参加者（支援者） 101人

○特別支援学級への就学に際し、保護者の経済的負担を軽減するため、特別支援教育就学奨励費を支給し、所得状況に応じて学用品費等の支援を行った。（学務課）

・支給総額 18,423千円

○配慮を要する児童を含む集団保育をより安全で良質なものにするため、配慮を要する児童の見守り等を行う保育補助職員を配置した施設に対し、人件費の一部を補助する保育体制強化事業を実施した。（保育課）

事業実施園 14園 補助金総額 8,911千円

<成果及び今後の取組等>

○「こども発達相談室」での相談内容が多様化・複雑化する中で、関係機関と連携しながら対応することができた。今後も連携を強化しながら、保護者に寄り添った支援の充実を図る。（子ども家庭課）

○家庭児童相談室の運営においては、子育ての駅や産後デイケアルーム・ままりらと連携しながら、相談しやすい環境づくりを進めることができた。また、長岡市要保護児童対策地域協議会では、家庭の抱える様々な問題の多様化・複雑化に適切に対応していくため、地域の関係機関との連携によるネットワークづくりを推進していく。（子ども家庭課）

○「こどもすこやか応援チーム」による訪問支援を実施し、園や保護者に対して、子どもの特性や困り感についての理解促進と具体的な対応について相談したことで、よりよい成長を促すことができた。（子ども家庭課）

○「すこやかファイル」の主旨や有用性が保護者・小学校に浸透したことで、ファイルの作成者が増加した。小学校への引き継ぎもスムーズになり、子どもと保護者の学校生活への不安が軽減された。今後も「すこやかファイル」の活用を関係機関と進めていく。（子ども家庭課）

○支援者と保護者が対象の研修会は、保護者の参加が増加した。当事者の保護者だけでなく、その他の保護者にも参加を促すよう広報し、「心のバリアフリー」を促進していく。（子ども家庭課）

○特別支援学級への就学において、今後も、保護者の経済的負担軽減のための支援を継続して行う。（学務課）

○保育体制強化事業を実施することで、安全・安心な保育を実施することができた。今後も、安全・安心な保育を進めるため、配慮を要する児童の受け入れを支援する事業を行っていく。（保育課）

3) 子育て家庭への経済的支援の充実（担当：学務課・保育課）

＜平成29年度の取組＞

○小・中学校への就学に際し、保護者の経済的負担を軽減するため、就学援助費を支給し、所得状況に応じて学用品費等の支援を行った。（学務課）

・支給総額 282,210千円

○認定を受けた児童の保育料等の減額を維持し、国が示す保育料基準額に対し約36%軽減して保護者の経済的負担軽減を図った。（保育課）

・国が示す保育料 約29億9,000万円

・市の保育料 約19億2,000万円

・保育料軽減額 約10億7,000万円（軽減率 約36%）

○新制度に移行していない私立幼稚園に在園する園児の保護者の経済的負担の軽減を図るため、各世帯の所得状況に応じて授業料及び入園料の一部を国と市で補助した。また、市単独で上乗せして私立幼稚園就園費助成金を支給した。（保育課）

①私立幼稚園就園奨励費補助金（入園児に対する支給割合87.5%）

支給対象者 49人 補助金総額 7,139千円

②私立幼稚園就園費助成金（市単独助成分）

支給対象者 44人 補助金総額 1,007千円

＜成果及び今後の取組等＞

○小・中学校就学における保護者の経済的負担軽減のための支援について、今後も継続して行っていく。（学務課）

○保育料を減額することで、保護者の経済的な負担をより軽減することができた。今後も国が示す保育料基準額に対し軽減を行い、保護者の経済的負担の軽減を図っていく。（保育課）

○幼稚園授業料及び入園料の一部を国と市が補助することで、保護者の経済的負担の軽減を図ることができた。今後も、保護者の経済的支援を行っていく。（保育課）

4) 多様な働き方の実現及び働きながら子育てできる環境づくり

（担当：子ども家庭課・保育課）

＜平成29年度の取組＞

○仕事と育児の両立を支援するため、ファミリー・サポート・センターを運営した。また、ファミリー・サポート・センター事業を広く周知するため、交流会や講演会を実施した。（子ども家庭課）

・ファミリー・サポート・センターのサポート活動件数 2,887件

○「ままナビ」で、保護者が保育園の生活や復職後の生活をイメージできるように支援した。（子ども家庭課）

193回実施 延べ586人利用

○新たな保育の担い手確保と保育補助者の資質向上のため、子育て支援員を認定する研修会を、8月及び12月の年2回開催した。(保育課)

- ・「地域保育コース」 125人
- ・「地域子育て支援コース」 11人
- ・「フォローアップ研修」 37人
- ・「現任研修」 47人

＜成果及び今後の取組等＞

○ファミリー・サポート・センターでは、今後も、登録会員の拡大や事業の充実を図るため、交流会の実施や制度のPRを行っていく。(子ども家庭課)

○「ままナビ」で、保育園入園に対する不安が軽減されたり、復職に向けての準備を整えたりすることができ、スムーズに復職することにつながった。(子ども家庭課)

○総受講者136人のうち、132人が子育て支援員として認定された。また、小規模保育施設（B型）*等に子育て支援員を配置し、小規模保育施設（B型）6園で計97人の受入れ増加が図られた。今後も子育て支援員を増やしていくとともに、認定された子育て支援員に対して「フォローアップ研修」等を実施することで、資質の向上を図っていく。また、就労希望者の新規掘り起こしを推進していくとともに、子育て支援員認定者のうち、就労希望者やその他勤務者に対して保育園等での雇用を促していく。(保育課)

※小規模保育施設（B型）

0歳児から2歳児までを預かる、定員19人以下の小規模な保育施設。「小規模保育施設（A型）」の職員配置がすべて有資格保育士であるのに対して、「小規模保育施設（B型）」は必要な職員配置のうち1/2が無資格の保育補助者で良い。ただし、長岡市においては、無資格の保育補助者に対して「子育て支援員研修」の受講を促し、保育の質の確保に努めている。

5) 保育サービスの充実、保育環境の整備及び保育士の確保

(担当：教育施設課・保育課)

＜平成29年度の取組＞

○安全・安心な保育環境を整えるため、上通保育園の屋上防水改修工事を行った。(教育施設課)

○快適な保育環境の整備を推進するため、宮内・中沢・山本・栖吉・昭和・上除・三和・中貫・宮本・和島の各保育園の3歳以上児保育室に冷房設備を整備した。(教育施設課)

○私立保育園の整備に対して財政的支援を行った。(保育課)

- ・東部川崎保育園の増改築
- ・宮内中央保育園の改修
- ・長生保育園の改修
- ・恵和保育園の改修

- 認定こども園の整備に対して財政的支援を行った。(保育課)
 - ・長生幼稚園まんまるの防音壁整備
- 保護者の子育てと就労との両立を支援するために各種特別保育を実施した。(保育課)
 - ・病児・病後児保育 5か所 1,220人
 - ・休日保育 4か所 929人
 - ・一時保育 31か所 5,922人
 - ・障害児保育 19か所 40人
- 子育て中の保護者に保育園を開放し、育児相談や子育てに関する情報提供等を行う子育て支援センター事業を継続して実施した。(保育課)
 - ・子育て支援センター開設園 25か所 延べ利用者数 60,002人
- 保育士確保のために、雇用する保育士の宿舍を法人等が借り上げた費用の一部を補助する保育士宿舍借り上げ支援事業や保育実習受入れなどに必要な費用の一部を補助する保育士等の人材交流等支援事業を実施した。(保育課)
 - ・宿舍借上げ 4園 補助金総額 1,449,000円
 - ・人材交流 4園 補助金総額 46,000円

<成果及び今後の取組等>

- 老朽施設等を整備し、安全・安心で快適な保育環境を整えることができ、保育園定員も60人増加した。今後も適切な整備を行い、保育環境の整備を推進していく。(教育施設課・保育課)
- 各種特別保育事業を実施することで、安心して子育てができる環境を整備することができた。(保育課)
- 保育人材の確保に継続して努めるため、今後も、事業効果を検討しながら保育士確保に関する各種事業を実施する。(保育課)

6) 放課後の児童の預かりサービスの充実(担当:青少年育成課)

<平成29年度の取組>

- 保護者の就労などで、留守家庭の小学生を対象に、保護者が迎えに来るまでの間、預かり見守る児童クラブを49クラブ開設し、登録児童3,052人(平成28年度は2,961人)、延べ387,720人(平成28年度は370,487人)が利用した。
 - 学年別登録人数(全児童数に対する登録率)
 - ・1～3年生:2,784人(42%)
 - ・4～6年生:268人(4%)
 また、放課後発達支援コーディネーターを配置し、配慮を要する児童への対応について、児童厚生員へ助言・指導を行った。
- 保護者の勤務実態、通勤事情等のやむを得ない事情がある場合には、開設時間の延長を有料で実施し、延べ48,823人(平成28年度は37,899人)が利用した。

＜成果及び今後の取組等＞

- 児童クラブを開設することで、児童が安心して過ごせる遊び場や生活の場を提供するとともに、子ども同士の交流や活動を通して健全育成を図ることができた。今後も、児童クラブの運営の充実に努める。

7) 多世代の交流、市民協働、企業との連携による地域全体で子育てを支援する体制づくり（担当：子ども家庭課）

＜平成29年度の取組＞

- 子育て支援の輪が広がっていくように、市内13か所の子育ての駅において、おじいちゃん、おばあちゃんとのふれあい遊びや、市内の学生によるお楽しみ会など多世代が交流する事業を実施した。
- 子育て中の保護者10名で構成する「子育ての駅運営委員会」を年6回開催し、子育ての駅の運営について改善点を検討したほか、運営委員が主体となり、地域版の子育ての駅の魅力を発信するための冊子を作成し、各子育ての駅に配置した。
- ファミリー・サポート・センターを運営し、地域全体で子育てを支え合う体制の充実に努めた。
 - ・ファミリー・サポート・センターのサポート活動件数 2,887件

＜成果及び今後の取組等＞

- 13か所の子育ての駅全体で平成29年度の来場者数は、278,819人となった（平成28年度は296,905人）。今後も、子育てしやすい環境づくりとして、多世代が交流する場を提供するとともに、利用しやすい施設の運営を行っていく。

①ちびっこ広場（長岡地域） 42,197人	⑧たんぼぼ（小国地域） 2,593人
②てくてく（長岡地域） 133,985人	⑨わくわく（和島地域） 4,294人
③ぐんぐん（長岡地域） 57,587人	⑩にこにこ（寺泊地域） 3,603人
④なかのんひろば（中之島地域） 2,532人	⑪すくすく（栃尾地域） 9,051人
⑤のびのび（越路地域） 4,290人	⑫にじの子広場（与板地域） 5,728人
⑥もりもり（三島地域） 5,998人	⑬すこやか（川口地域） 6,032人
⑦やまっこ（山古志地域） 929人	
- 子育ての駅の運営にあたっては、「子育ての駅運営委員会」を設置するとともに、様々な年代の市民から「子育ての駅サポーター」として協力を得るなど、市民参加型の施設運営が実現できた。今後も、子育て支援団体や市民と協働・連携した子育ての駅の運営の充実に努める。
- 会員の養成講習会を実施し、ファミリー・サポート・センター事業の充実に努めた。今後も、事業を充実し支援体制の強化を図るとともに、登録会員の増加と利用の促進を図る。

8) 保護者対象の講座の実施など家庭教育への支援

(担当：子ども家庭課・青少年育成課)

<平成29年度の取組>

- 小学校就学前の子どもを持つすべての保護者に、家庭教育等に関する基本的な事項を伝えるため、就学時健康診断などの保護者が集まる機会を活用し、指導主事等による「就学時家庭教育講座」を市内57校中53校で実施した。なお、残り4校の内、2校は独自で実施し、2校は入学予定者がいなかったため実施しなかった。(青少年育成課)
- 「家庭で子どもに手伝いをさせよう運動」を推進するため、「お手伝い通信」を年4回発行し、すべての小学校、中学校、保育園、幼稚園の児童・生徒の保護者に配布した。また、小・中学生を対象に、「家庭でワクワクお手伝いポスターコンクール」を実施し、188点の応募があった。運動の推進週間には、審査会で選考した42点をさいわいプラザやアオーレ長岡で展示した。(青少年育成課)
- 幼児、小・中学生の子を持つ親が、様々な子育ての課題にどう対応するかを学ぶ「親も育つ子育てセミナー」を2コース18講座を開催し、延べ385人が受講した。(青少年育成課)
- 参加者同士の話し合いと交流の中で自分にあった子育て方法を見つけていく「NPプログラム講座」*を実施した(母親向け及び父親向けをそれぞれ開催)。その他に、子育ての具体的なスキルを学ぶ「子どもとの上手なコミュニケーション講座」や、「思春期世代の保護者向けストレスマネジメント講座」などを実施した。(子ども家庭課)

子育て講座参加者 延人数 328人

- ・母親向けNPプログラム講座 120人(平日・午前/保育付き)
- ・父親向けNPプログラム講座 46人(日曜・午前/保育付き)
- ・子どもとの上手なコミュニケーション講座 51人(平日・午前/保育付き)
- ・思春期世代の保護者向けストレスマネジメント講座 111人(平日・夜間)

※NP(ノーバディーズ・パーフェクト)プログラム講座

「完璧な親なんていない」というメッセージのもとに作られた、カナダ生まれの親支援プログラムで、保護者同士の交流をベースとしたグループワーク方式の連続講座。

<成果及び今後の取組等>

- 「就学時家庭教育講座」を実施することで、家庭教育の基本的な事項、学校との関わり等の保護者が共通に知ってもらいたい内容について、理解を深めることができた。今後も保護者が集まる機会を利用し、保護者の意識啓発を図る。(青少年育成課)
- 「お手伝い通信」を定期的に発行したり、ポスターコンクールを実施したりすることで、子どもが家庭で決められた仕事や手伝いを継続的に実施することの有用性や必要性について広く周知することができた。今後も、親の意識啓発を図るとともに、家庭における子どもの望ましい成長を応援していく。

(青少年育成課)

- 「親も育つ子育てセミナー」は幼児期、児童・思春期コースともに受講希望者が多く、参加者が毎回定員近くに達している。また、幼児期コース受講者の約4割が児童・思春期コースも続けて受講しており、継続的な学びの場を提供できた。今後は、引き続きニーズの高い専門的な内容を充実させるとともに、ワークショップなどの受講者の主体的な学びを促すようなプログラムづくりに努める。(青少年育成課)
- 「NPプログラム講座」等は、いずれもアンケートの回答内容から参加者の満足度が感じられる結果が得られた。今後も、子育て不安や育児の悩み解消につなげられるよう、ニーズを把握しながら事業の充実を図っていく。(子ども家庭課)

9) これから親になる世代に「いのち」の大切さ、子育ての楽しさ、喜びを伝える施策の充実(担当:子ども家庭課)

<平成29年度の実施状況>

○中学生を対象に、乳幼児や親子とのふれあい等を通じて命の大切さや子育てについて学ぶことにより、自尊心や自己肯定感を育むとともに、やがて自身も大人となり自立していくという意識の醸成を図る「思春期向け次代の親育成事業」を実施した。

- ・中学校2年生 3校6クラス 163人参加
- ・中学校3年生 3校8クラス 280人参加

<成果及び今後の取組等>

○事業実施前と実施後のアンケートにより、「幼い子への愛おしさや命の大切さを感じる事ができた」と答えた割合が17.7%、「自分は大切な存在だと思える」と答えた割合が16.6%上昇し、事業実施の効果を図ることができた。今後は、なるべく多くの生徒が体験できるよう事業の充実を図っていく。

3 質の高い教育の推進

1) 熱中!感動!夢づくり教育の推進(担当:学校教育課)

<平成29年度の実施状況>

○平成29年度も、「どの子にも分かる授業の実現」、「地域の力、市民の力を生かした教育の推進」、「熱中・感動体験の充実」の3つの方策のもと、熱中!感動!夢づくり教育を推進した。児童生徒に豊かな体験と確かな学びで夢を描き志を立てる力と生き抜く自信を育むことを目指して、関係機関等と連携しながら合計85事業を実施した。

○熱中!感動!夢づくり教育の取組を市民等に周知するため、パンフレットを作成・配布した。保護者向けに特化したパンフレットの作成・配布についても、

昨年度に引き続き行った。また、熱中！感動！夢づくり教育をより広く周知するため、フェイスブックを開設し、さまざまな事業の発信を行った。

＜成果及び今後の取組等＞

- 全85事業を通して、多くの児童生徒に熱中・感動体験やどの子にも分かる授業を経験してもらうことで、社会性とコミュニケーション能力や、ふるさと長岡への愛着や誇りを土台に社会に貢献できる資質・能力を育むことを支援することができた。
- 熱中！感動！夢づくり教育の取組を教育関係者・保護者等にパンフレットを通じて広く周知することで、市の目指す教育について理解・関心を深めることに効果が得られた。今後も、熱中！感動！夢づくり教育を紹介するフェイスブックを最大限活用し、さらなる周知に取り組む。

2) どの子にも分かる授業の実現（担当：学務課・学校教育課）

＜平成29年度の取組＞

- 六日市地区から2小学校の統合を望む要望書が提出されたことを受け、平成29年度末に六日市小学校と山谷沢小学校を閉校し、平成30年4月1日に岡南小学校を開校するための準備を行った。（学務課）
- 中野俣地区から中野俣小学校の統合を望む要望書が提出されたことを受け、平成29年度末に中野俣小学校を閉校し、平成30年4月1日に栃尾南小学校に統合するための準備を行った。（学務課）
- 学習指導、生徒指導等の補助業務を行い、教育活動の充実を図るため、教育補助員45人を配置した。（学校教育課）
 - ・小学校25校（26人）、中学校19校（19人）
- 外国語を通して、国際社会に通用する表現力やコミュニケーション力を身に付けさせるため、英語指導助手（ALT）と英語指導員（JTL）を全小・中学校に派遣した。（学校教育課）
 - ・小学校 低学年4時間、中学年4～8時間、高学年16時間
 - ・中学校 全学年2週間に1回程度
- 様々な知識・技術等を持った専門家を学校に招いて豊かな体験と学ぶ楽しさを提供するため、地域の人材や生涯学習文化課作成の生涯学習人材バンク「まちの先生」などの中から指導者を学校へ招へいた。（学校教育課）
- 児童に体を動かすことの楽しさを味わわせ、運動への興味・関心を高めるため、小学校の体育授業に専門的な知識や経験、技能をもつ指導員をアシスタント指導者として派遣し、コーディネーショントレーニング[※]を取り入れた「ながおか元気ッズプログラム」を実施した。（学校教育課）
 - ・派遣校数 小学校26校

※コーディネーショントレーニング

状況を目や耳等の五感で察知した後、筋肉を動かす一連の動きをスムーズに行うなどの能力を高めるための運動方法。

○教育センターでは、「どの子にも分かる授業の実現」に直結する教職員の人間性や専門性を高めるため、教員サポート錬成塾、研修講座、要請研修などの研修事業を実施した。（学校教育課）

＜成果及び今後の取組等＞

○学校規模適正化に向けた基本的な考え方にに基づき、今後も、地域からの要望を尊重するとともに、地域関係者への十分な説明を行い、学校規模適正化を進める。（学務課）

○学習指導や生徒指導等において特に支援が必要とされる学校に教育補助員を配置したことにより、チームティーチングや個別指導が充実し、児童生徒の学習規律の定着や学習意欲の向上にも成果が見られた。（学校教育課）

○派遣しているJTLが、教科化に向けて大きく変わる外国語活動の動向をふまえて、授業づくりのサポートを学級担任にマンツーマンで行ったことにより、学校から高い評価をいただいた。また、単元開発の成果を年度末に「単元、いいねっか!」として全小学校にメール配信したことにより、授業の計画、実施において有効活用されている。（学校教育課）

○「まちの先生」として、体育や総合的な学習、特別活動の時間等に延べ2,245人以上の指導者が教育活動に参画し、豊かで多様な体験活動を実施することができた。（学校教育課）

○体育授業に専門的な知識・技能をもつアシスタント指導者を派遣し、運動能力に関わらず、楽しみながら学ぶことで、「体幹からしっかり体を動かすことができた。」「回数を重ねるにつれて、子どもたちの動きの精度が高まった。」等の効果があった。（学校教育課）

○教育センター研修講座には、延べ3,525人の教職員の参加があった。また、各校からの依頼に基づき189回の要請研修を実施した。研修講座、要請研修を通し、教職員の資質・指導力の向上が図られ、分かる授業の実現につながった。今後、新学習指導要領へ対応する研修講座、要請研修を行う。（学校教育課）

○教育センター錬成塾では、錬成塾ベーシック（基礎・基本）コースに58人、クリエイティブ（応用・発展）コースに31人の若手教職員が参加し、嘱託指導主事のマンツーマン指導の下、人間性と資質を高めた。（学校教育課）

3）地域の力、市民の力を生かした教育の推進（担当：学校教育課）

＜平成29年度の取組＞

○開かれた学校づくりを推進するため、中学校区単位で地域連携フォーラムを実施した。また、第16回いきいき教育推進懇談会では、学校と地域が連携した取組事例の発表とグループ協議を行った。

・地域連携フォーラム（27中学校区全部でそれぞれ実施）

・いきいき教育推進懇談会（11月18日 アオーレ長岡・アリーナ 保護者、教職員、地域連携を推進する地域住民等約300人が参加）

テーマ「実効性のある連携・協働のために！～長岡版！学校・家庭・地域の連携・協働のあり方を探る～」

連携事例発表：十日町小学校・十日町コミセンの取組

○地域と学校が連携して長岡の子どもたちを育てるため、地域の人材や生涯学習文化課作成の生涯学習人材バンク「まちの先生」などの中から指導者を学校へ招へいした。

○市民力・地域力を教育に生かすため、地域の団体、NPO等が自主的に行う子どもを対象とする活動（自然体験活動、伝統文化の継承、環境美化活動、スポーツ・レクリエーション活動等）に対し、地域・子ども元気塾事業として助成金を交付した。助成団体は、公開審査会を経て決定した。

8団体（申請10団体） 助成総額 1,557,000円

○中学生が、市内及び近隣の高等学校、大学・専門学校、地元企業等の特色を学んで進路選択に役立てることができるよう、高等学校等が一堂に会して自校の教育や仕事内容を説明したり、実際にさまざまな体験をしたりできる「ながおかハイスクールガイダンス」を実施した。

<成果及び今後の取組等>

○地域連携フォーラムは、各中学校区の実情に応じたテーマ・内容を設定することにより、幼・保、小・中学校の保護者・教職員及び地域の教育等関係者が参加し、連携意識を高めることができた。また、いきいき教育推進懇談会の参加者は、「学校とコミセンが連携した取組を改めて知る機会となり参考になることが多かった。」など自校や自地域での取組に生かすよう考えを深めていた。グループ協議では、様々な立場の方々に構成したメンバーでの情報交換の後、同じ地域の方々に構成したメンバーでの意見交換を行う2部構成の形態で行うことで、いろいろな地域での取組や課題を持ち寄って、自地域での取組に生かすよう意見交換を行った。今後もグループ協議を取り入れるなどして、長岡全体で学校・家庭・地域が連携した取組を充実させ、子どもの健全育成と地域の活性化につなげる。

○「まちの先生」として、体育や総合的な学習、特別活動の時間等に延べ2,245人の地域の人材が教育活動に参画することで、地域の力や市民の力を生かした教育を推進することができた。

○地域・子ども元気塾事業では、事業支援を目的に、子どもたちに熱中・感動体験を提供する事業であるかどうかという視点に立ち、公開審査を行った。公開審査会において申請事業の内容等を確認し、公平な審査を行うことができた。

○ながおかハイスクールガイダンスでは、ハイブ長岡を会場としたことにより、多数の中学生や保護者から参加いただいた。中学生等市民約1,200人が参加し、進学だけでなく、将来を見据えた進路選択の一助とするという初期の目的が達成できた。

4) 「熱中する」「感動する」「夢につながる」熱中・感動体験の充実

(担当：学校教育課)

<平成29年度の取組>

○子どもが夢中になる、感動する、夢につながる活動を充実させるために、熱中・感動体験活動（全60事業）を4つに体系化して実施した。

- ・個性・能力を伸ばす事業 27事業
- ・感性・情操を豊かにする事業 9事業
- ・地域・自然を愛する心を育む事業 15事業
- ・社会の一員としての意識を高める事業 9事業

<成果及び今後の取組等>

○「中学生総合文化祭ながおか夢フェスタ」を、11月25日にアオーレ長岡アリーナで開催した。発表、作品展示を合わせて14校、発表には約220人の中学生が参加した。作品展示校が増え、絵画だけではなく立体作品や絵手紙など多彩な作品が展示された。参加した中学生、保護者を含め約1,000人が来場し、文科系部活動（合唱、和太鼓、吹奏楽等）や日頃の学習の成果を知ってもらうことができた。

○「ながおか未来塾」を、1月20日、21日にアオーレ長岡市民交流ホール及び東泉閣を会場に開催した。37人の参加があり、早稲田大学教授NPO法人エコプラス代表理事の高野孝子さん、長岡商工会議所会頭の丸山智さん、長岡市国際交流センター長の羽賀友信さんの「志」講話に加え、ヤングキャベツのお二人を講師としたコミュニケーションの大切さを学ぶワークショップや長岡市で活躍されている方を招いたワークショップを通して、志について具体的に考える研修となった。今後も、様々な機会をとらえて、生徒に自ら考えさせる場を提供できるよう努める。

○「夢づくりスポーツ推進事業」では、対象を市内在住の全小・中学生に拡充し、19種目の競技において、スポーツに親しむきっかけづくりの場としての入門体験プログラムと専門性の高い指導者から高度な指導を受ける機会であるアカデミープログラムを設定した。各種目にて約4,400人が参加し、幅広くスポーツに親んでもらうことができた。

○「長岡企業を学ぼう」では、中学校8校で、実際に社会で活躍している講師から実体験をもとにした話を聞く講演会を実施した。約450人の中学生が話を聞く中で、将来に向けての進路を考え、地元で活躍しようとする「志」について考えるよい機会となった。

○個々の事業については、成果及び課題、参加数、参加者の声などを参考に、実施の可否を含め、目的、実施時期、内容等の見直しを行い、より一層の充実を図る。

5) 学校施設の計画的な改修などによる、安全・安心で快適な教育環境の整備（担当：教育施設課）

<平成29年度の取組>

○安全・安心で快適な教育環境を整備するため、校舎の大規模改造等の工事に着手した。

- ・上川西小学校校舎増築・大規模改造工事
（平成29年度から31年度までの継続事業）
- ・大河津小学校校舎改修工事
（平成29年度から30年度までの継続事業）
- ・堤岡中学校校舎等大規模改造工事
（平成29年度から30年度までの継続事業）

○快適な教育環境を整備するため、トイレ改修工事及び冷暖房設備改修工事を実施した。

- ①トイレ改修工事 6校
- ②冷暖房設備改修工事 10校

<成果及び今後の取組等>

○老朽化の進行や教室が不足する学校について、大規模改造及び増築工事に着手したり、トイレの洋式化と衛生環境の向上を図り、子どもたちの快適な利用を実現するため、トイレ改修工事を実施したり、夏期の学習環境を改善し、熱中症予防や学力向上につなげるため、冷暖房設備改修工事を実施した。今後も適切な整備を計画的に進め、安全・安心で快適な教育環境を整備していく。

6) 通学路における児童・生徒の安全確保（担当：学校教育課）

<平成29年度の取組>

○登下校時の通学路及び校区における児童生徒の安全確保を図るため、セーフティーパトロール事業等を推進したほか、学校や警察から報告を受けた不審者情報を小・中学校及び関係機関に提供した。

- ①警察・道路管理者・教育委員会・学校（地域）合同の通学路合同一斉点検の実施 全小学校区（小学校57校区）
- ②通学路点検の実施 全中学校区（中学校27校区）
- ③地域住民によるセーフティーパトロール団体数 57団体
- ④学校教育課が小・中学校、関係機関へ提供した不審者情報 27件

<成果及び今後の取組等>

○通学路の合同一斉点検により、通学路のハード面の安全対策が大きく進んだ。
○市内57小学校区でセーフティーパトロール団体等による子どもの安全を守る活動が実施された。

7) 食物アレルギー対応の充実などによる健康で安全な学校生活の推進

(担当：学務課)

<平成29年度の取組>

- 教育委員会(学務課・保育課)主催の食物アレルギー研修会を年3回実施した。
 - ・第1回(H29. 6. 8)参加者 教職員等 127名 保育関係者等 156名
 - ・第2回(H29. 11. 9)参加者 教職員等 100名 保育関係者等 112名
 - ・第3回(H30. 2. 23)参加者 教職員等 99名 保育関係者等 104名
- 学校給食における食物アレルギー対応について、市内アレルギー専門医、栄養教職員・養護教諭・学務課職員で検討会を実施した。
- 学校の給食だより等で食物アレルギーに関する情報を保護者に提供した。

<成果及び今後の取組等>

- 引き続き、教職員等を対象とした研修を行い、食物アレルギーに関する理解を深め、学校給食における誤食を防ぐ体制づくりと緊急時において迅速かつ適切な対応がとれるよう、給食の安全性向上に努めていく。
- 今後も日常的に保護者と連携し、家庭での食事や学校給食等で新たに食物アレルギー症状が出た場合には、医師の指示や保護者との面談に基づき学校での対応を決定する。また、家庭科など食物アレルギーに関連する教科の学習を通じて、子ども自身にも食物アレルギーの知識を深めさせ、自ら対応できる力を育てるような取組を進めていく。

8) 子ども、保護者、学校・教職員などへのサポート体制の充実

(担当：学校教育課)

<平成29年度の取組>

- 「子どもふれあいサポート事業」において、いじめをはじめとする問題行動・不登校・児童虐待など、子どもをめぐる様々な問題への対応を実施した。
 - ①サポートチームの活動 90ケースに対応
 - ・サポートチーム会議(関係機関との連携) 73件
 - ・サポートチーム会議(要対協との連携) 17件
 - ②「子どもサポートコール」相談件数 136件
 - ③適応指導教室(「長岡フレンドリールーム」、「栃尾やまびこルーム」、「寺泊はまちゃん教室」、「おぐに日だまりルーム」)の設置及び訪問相談員の派遣
 - ④心ふれあい相談員の学校への派遣 20人29校へ派遣
- 不登校児童生徒の学校復帰を支援するため、適応指導教室の運営や訪問を実施するとともに、教育相談の充実を図った。
- 心のケアを必要とする児童生徒への適切な支援が学校全体で行われるよう、教職員の資質向上を図った。

<成果及び今後の取組等>

- 困難な事例に対して、各関係機関がより専門的な立場で関わることで、明確

に役割を分担し、迅速で適切な対応が取れた。今後はさらに連携を深めるため、相談機関の実務担当者による相談会を定期的に実施する。

- 適応指導教室では、児童生徒の状況に応じて、学習以外にも体験活動や人間関係づくり等の多様な活動を行い、児童生徒の適応を促すことができた。さらに学校との連携を深め、適応指導教室の通級や訪問相談につなげる。
- 教育センターで教育実践講座を実施し、教職員の資質向上を図った。子どもサポートカウンセラー（臨床心理士）との連携により、質の高い支援を行う。

9) 特別な支援を要する子どもへの支援体制の整備とインクルーシブ教育システム*の充実（担当：学校教育課）

※インクルーシブ教育システム

人間の多様性の尊重等の強化、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とするとの目的の下、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組みであり、障害のある者が教育制度一般から排除されないこと、自己の生活する地域において初等中等教育の機会が与えられること、個人に必要な「合理的配慮」が提供される等が必要とされている。

<平成29年度の取組>

- 特別な教育的支援を必要とする児童生徒への支援を充実させるため、介助員等の人的支援や特別支援学級の新増設等環境整備の充実を図った。
 - ①特別支援学級の新増設 小学校13学級、中学校9学級
 - ②総合支援学校・高等総合支援学校への介助員・作業支援員・看護師の配置 介助員21人、作業支援員9人、看護師3人、代替看護師2人
 - ③特別支援学級への介助員の配置 57校99人
 - ④通常学級への特別支援介助員の配置 19校21人
- 合理的配慮の提供の視点をもとにインクルーシブ教育システムがより充実するよう、インクルーシブ教育システムコーディネーターが市内全学校を訪問し、指導した。
- 幼・保、小・中学校が連携して保護者との合意を重視した就学相談を行うため、各中学校区に1～3人の専門相談員を依頼し、専門相談員が中心となった就学相談の充実を図った。また、関係課と連携して就学校にエレベーターの設置を決定するなどして、学校環境の整備・充実にも取り組んだ。
 - ①専門相談員の依頼 103人
 - ②就学に関する相談件数 392件（前年度351件）
- 教育、福祉、医療、労働をつなぐ拠点である総合支援室において、総合支援コーディネーター1人、専門の嘱託員2人が関係機関と連携しながら、卒業生を含めた児童生徒の生活支援・就労支援の充実を図った。また、早い段階から継続した支援が受けられるよう、学校教育課が相談窓口となり、各専門機関をつなぐ体制を整えた。

＜成果及び今後の取組等＞

- 介助員の配置や特別支援学級の新增設により、特性に応じたきめ細かな指導・支援を行い、自己肯定感を高めるとともに、基本的な生活習慣の定着や社会性の向上等の成果が見られた。
- 市内全学校で、合理的配慮の提供に確実に取り組むことができた。今後、より適した合理的配慮の提供や校内体制が整備されるよう、学校訪問を通じた継続支援に努める。
- 施設面での支援を行うことで、特別支援教育の充実が図られた。また、児童生徒の教育的ニーズに応じた就学先の選定ができるよう、専門相談員による就学相談を継続していく。
- 総合支援室では、延べ1,714人からの相談に対応した。相談内容によっては、課題が複雑化したり長期化したりするケースがあるため、必要に応じ、関係機関の連携強化により一層取り組み、充実したサポートに努める。

10) 私学の振興と家庭の教育費負担軽減（担当：学務課）

＜平成29年度の取組＞

- 私立高校就学者の保護者の経済的負担を軽減するため、学費の助成を行った。また、市内の私立高等学校3校に対し、運営費を補助した。
 - ・学費助成金総額 10,127千円
 - ・運営費補助金総額 17,669千円

＜成果及び今後の取組等＞

- 私立高校就学者の保護者に対する経済的負担軽減や、私立高等学校の健全経営のための支援を継続していく。

11) 長岡市SNSセーフティープログラム[※]に関する取組

（担当：学校教育課・子ども家庭課・保育課・青少年育成課）

※長岡市SNSセーフティープログラム

情報モラル教育の確実な取組を推進し、子どもたちの生活習慣のみだれやインターネットの不適切な利用、SNSによるトラブルを未然に防止するため、子どもの発達段階に応じて啓発活動等を体系づけたプログラム。

＜平成29年度の取組＞

- 全小中特別支援学校から教職員が参加し、最新の情報や実践例をもとに研修会を開催した。教職員がSNS時代に必要な情報モラル教育についてどう学校体制を組織していけばよいかを学び、各校の取組に生かした。（学校教育課）
- 校内研修用DVDを作成し、各学校に配布して活用を図り、教職員の資質向上に努めた。（学校教育課）
- 情報モラルNavi（授業案や資料等）等を活用した授業を各学年1回以上実施した。（学校教育課）

- 「広めよう！市P連ルール※ 啓発標語コンテスト」の入賞標語を学校教育用パソコンへモラルメッセージとして配信した。(学校教育課)

※市P連ルール

長岡市出雲崎町小中学校PTA連合会が策定したSNS利用のルール。

- 子育ての駅等での講座や、こんにちは赤ちゃん訪問、赤ちゃん相談、1歳6か月・3歳児健診時にリーフレットを配布し、親子のふれあいの大切さや家庭でのメディアとの望ましいつきあい方を伝えた。(子ども家庭課)
- 公立園長の自主研修会で講師を招き、SNSの現状と問題点などについて学習した。(保育課)
- 就学時健康診断などの保護者が集まる機会を活用した「就学時家庭教育講座」において、子どものSNSやゲーム、テレビ等のメディアとの関わりについて講義し、周知を図った(全57校中53校)。(青少年育成課)
- 小・中学生の子を持つ親向けの子育て講座「親も育つ子育てセミナー」児童・思春期コースにおいて、子どもを取り巻くインターネットやスマホ利用の現状について、専門家による講義を実施した。(青少年育成課)
- 子どもたち自身にSNSの危険性や望ましい使用方法を知ってもらうため、「市P連ルール」の啓発活動として、各家庭への「市P連ルール通信」の配布等、PTA連合会と連携しながら取り組んだ。(青少年育成課)

<成果及び今後の取組等>

- 教職員へ研修会を開催したことにより、多くの学校でSNSの危険性と望ましい利用の仕方などについて、講演会の開催、いじめ見逃しゼロスクールでの意見交換等の実施につながった。その結果、児童生徒・保護者がSNSの適切な利用の仕方について学ぶことができた。(学校教育課)
- 次年度も教職員向けの研修会を実施し、教職員の意識を高め、各校での具体的な取組につなげていく。(学校教育課)
- 校内研修用DVDの活用やSNS利用の「市P連ルール」のパソコンへの表示、情報モラルに関する授業により、児童生徒・教職員のSNSの適切な利用に対する意識を高めることができた。(学校教育課)
- 次年度は市生徒指導研究会が市内小学校4年生から中学校3年生の児童生徒のSNS利用実態調査を実施予定である。利用状況の把握に努めると同時に、問題点を見つけ、SNSの適切な利用に対する指導のポイントの把握や問題事案の未然防止に努める。(学校教育課)
- 乳幼児の保護者への啓発活動に引き続き取り組む。(子ども家庭課)
- 公立園長の自主研修会の開催により、職員の意識啓発及び保護者への説明のための知識を習得することができた。今後も、保育園と連携しながら、職員の研修と保護者への周知啓発に取り組む。(保育課)
- 「就学時家庭教育講座」や「親も育つ子育てセミナー」での講義、「市P連ルール」の各啓発活動を通じて、子どものSNS利用に関する注意事項など、

多くの保護者や子どもの理解を深めることができた。今後も保護者が集まる機会等を利用し、更なる意識啓発を図る。(青少年育成課)

- 「長岡市SNSセーフティープログラム」について、今後も、各課及び関係機関が連携して実践することにより、情報モラル教育の確実な取組を推進していく。(学校教育課・子ども家庭課・保育課・青少年育成課)

4 生涯にわたるまなびの場の充実

1) 市民主体の生涯学習の推進、学習環境の効果的な整備

(担当：中央図書館・科学博物館)

<平成29年度の取組>

- 展示・研究の基礎となる収蔵資料の保管環境整備やくん蒸・修復等の資料整備、植物の亚克力樹脂封入標本等の新規展示物制作等を通じて学習環境の整備を行った。また、馬高縄文館で縄文土器の精緻な修復を行い、展示内容の向上を図った。(科学博物館)
- 更なる資料の活用を目指して、寺泊民俗資料館の寺泊夏戸地内への移転及び、移転先での展示作業を行った。(科学博物館)
- 美術センターの自主企画展「長岡市立図書館開館100周年イベント 詩人堀口大樹と長岡展」では、11日間で1,227人の入場があった。また、ながおかネットミュージアムに、長岡藩主牧野家の書画など16件追加した。(中央図書館)
- 平成28年度に設置した中・高生が進学や将来の職業を考えるための「中高生向け図書館しごと応援」図書コーナーの資料の充実を図った。(中央図書館)

<成果及び今後の取組等>

- 博物館等の設備・展示について、今後も、来館者の反応に目を向けながら、学習意欲の増進につながるような整備に努めていく。(科学博物館)
- 寺泊民俗資料館については、平成30年度中の開館を目指して展示作業を進め、地域資料の活用に努める。(科学博物館)
- 美術センターでは、今後も郷土資料を活用した魅力的な展示会を実施していく。また、中央図書館の貴重資料について、デジタル化・公開をしていく。(中央図書館)
- 中・高生が興味を持って手に取りやすい仕事に関する資料を、1か所にまとめることで、新たな利用を促すことができた。今後も、職業関連の資料の充実に努める。また、オンラインデータベースサービスの年間利用件数が183件あった。今後も、HPやチラシを活用して、課題解決に向けた図書館の便利な使い方をPRしていく。(中央図書館)

2) 民間活力を基にした互尊文庫創設の精神を継承し、新たなまちなか図書館を整備（担当：中央図書館）

＜平成29年度の取組＞

○中心市街地整備室が中心となり、まちなか図書館を含めた複合施設である米百俵プレイス（仮称）の基本的な考え方について、有識者により検討を重ねた。

＜成果及び今後の取組等＞

○まちなか図書館の基本的な考え方について検討した。今後、中心市街地整備室において、「人づくり・学び・交流」をキーワードとした図書館機能を含む複合施設の導入機能についてさらに検討する。

3) 市民の主体的・創造的な文化芸術活動への支援（担当：中央図書館）

＜平成29年度の取組＞

○栃尾美術館において、長岡ゆかりの作家を紹介する「山田博行写真展-記憶のトレイス-」、「田中守展 刻の行方」、社会的に関心・興味の高い「高橋まゆみ人形展～ようこそ心のふるさとへ～」などの展覧会の開催や、気軽に美術に親しめるワークショップ「夏休み☆まいにち工作」や造形講座、「とちびまつり」などのイベントを開催し、年間を通して美術館で文化芸術に関わる機会を提供した。また、中央図書館美術センターでは、自主企画展の開催や文化芸術活動の発表の場として市民への貸出を行った。

＜成果及び今後の取組等＞

○「高橋まゆみ人形展」の観覧者数は栃尾美術館歴代1位の19,185人（ただし、一日あたりの観覧者数は336人で歴代2位）、平成29年度総観覧者数も26,256人（前年度比1.42倍）で歴代2位となり、市内外の多くの人から美術館を利用・周知してもらうことができた。作品が地域の人たちの共感を呼び、集客につながった部分も大きい。今後も、開催することに意義のある展覧会や普及活動の企画を目指していく。

平成 30 年 8 月 17 日

長岡市教育委員会
教育長 高橋 讓 様

長岡市教育委員会事務評価委員会
委員長 青柳 良一
副委員長 渡辺 美子
委員 高野 真規

教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価について

平成 29 年度に執行された長岡市教育委員会の会議、施設訪問、事務事業の内容及びその点検結果について、教育長並びに事務局職員からヒアリングを行い、長岡市教育委員会事務評価委員会として点検、評価を行った。

当委員会の点検、評価結果については以下のとおりである。

●全体を通しての意見

- 「長岡市教育振興基本計画」の各施策に基づき、全体的にきめ細やかな取組が着実かつ丁寧に実施されており、ほとんどの取組において成果を挙げている。今後も、常に実態を把握しながら、支援が必要な市民にしっかりと届くような事業を進めてほしい。
- 熱中！感動！夢づくり教育や子育て支援など、教育や子育てに向けた様々な施策が実施され、「米百俵のまち」「子育てしやすいまち」が具現化されてきている。
- 子どもが生まれ育つ過程において生ずる様々な課題について、着実な取組がなされ、成果も挙げていることは高く評価できる。一方で、今後ますます支援が多様化、複雑化し、さらに関係機関との連携が重要となるので、様々な悩みをワンストップで解決できる仕組みを作ったりするなど、横断的な事業展開を図っていく必要がある。
- 「レイマンコントロール」が確保され、偏りのない市民目線で審議がなされている。今後も、社会環境の変化や市民の要望等に適切に対応できるように市民目線を大切にしたい取組を期待したい。
- 「働き方改革」は教育の分野でも最重要課題であることから、総合教育会議において、市長と教育委員会が「部活動指導のあり方について」をテーマに意見交換を行ったことは、大きな意義があることだと評価している。今後も、国や県の施策に加え、市独自の取組も積極的に進めてほしい。

●各施策についての意見

I 教育委員会の開催及び審議状況等について

定例会については、会議録が市のホームページから検索しやすく、内容もわかりやすく記載されている。また、会議録の内容から、各委員が納得のいくまで議論ができる会議となっており、活発な議論がなされていることがうかがえる。

施設訪問では、あらかじめ年間計画を立てるとともに、定例会の日程に合わせて実施することで、教育委員全員が参加し、充実した内容となっている。また、授業参観や職員懇談、給食試食等が実施されているほか、訪問先での課題について意見交換する時間も設けられており、現場に寄り添ったものとなっている。

総合教育会議では、市長と教育委員会が長岡市の教育政策における重要課題について、テーマを絞って話し合い、今後の方向性を共有できたことは非常に

評価できる。

定例会・臨時会については、市のホームページで会議録が閲覧でき、透明性の確保が図られているが、事前の広報について、ホームページでの掲載方法を更に工夫するなどし、市民が傍聴しやすい開かれた会議となるよう一層努めてほしい。

II 教育委員会における事務の点検・評価について

1 郷土愛の醸成による人材の育成

郷土長岡を学ぶ教育活動の推進については、冊子「ながおか学」の大幅改訂により内容の充実が図られ、子どもたちのために作られた冊子が、結果として大人たちにも受け入れられていることは評価できる。是非、多くの方に手に取っていただけるように今後もPRに努めてもらいたい。

長岡独自の人材育成の礎である「米百俵の精神」の普及・啓発に、子どもにも理解できるDVDアニメを活用しており、成果を挙げている。

大英博物館との火焰型土器展示を通じた交流は、世界に長岡を発信する素晴らしい機会であり、また、東京オリンピック・パラリンピックの聖火台として火焰型土器採用を広域地域が連携して進めていることは評価できる。

文化財のホームページでの公開や紹介冊子の配布等を通して、価値や魅力を発信することに努めている。また、旧長谷川邸で行われた民間団体とのコラボレーション企画は斬新であり、新たな歴史・文化財へのファンが得られた。

科学博物館における特別展や講演会の開催は、子どもたちに豊かな自然・歴史・文化に触れる機会を提供している。また、来館を待つだけでなく、学芸員が出向いて行く企画は評価できる。

災害の復興の記録は、次々に起こる他県での災害の道しるべとなり得る貴重な資料であり、保存、公開に力を入れている点は大変重要であると考えられる。

戦災資料館の見学や平和劇の発表など各学校ごとに工夫した取組がなされ、平和学習の広がりや深化が著しい。また、戦争体験者が少なくなる中で、教職員向けの研修に平和教育を位置付けたことは、長岡ならではの人材育成事業であり評価できる。

青少年の健全育成活動の推進について、人口減により子ども会が成り立たなくなっている地域がある中で、リーダー育成、ボランティア活動体験などを事業として行うことは大事であることから引き続き取り組んでほしい。

2 子ども・子育て支援の充実

母子保健推進員との連携により、乳幼児や妊産婦への支援が切れ目なく、きめ細やかに支援が行われている点は評価できるが、今後ますます地域における母子保健推進員の支援が必要になってくると思われるので、各地域の母子保健

推進員の実態（人数、年齢層、次世代への引継の状況）を把握し、安心して子育てができるよう将来にわたって継続的に支援ができることを期待する。

「すこやかファイル」の作成が進んでいることは、切れ目のない支援を行うとする体制が子育てに不安を感じる保護者に届いているものと考ええる。また、支援が必要な子どもや家庭に対して、地域が共に寄り添って対応していることが評価できる。

各種援助費の拡大や保育料軽減により、子育て家庭への経済的負担が軽減されたことは、子どもの貧困対策にもつながると考える。今後は、長岡市における貧困の状況を把握して、一層の対策に取り組んでほしい。

子育て支援員の認定講習会が実施され、新たな支援員が認定されたことにより、園児の受け入れ増加が図られたことは評価できる。潜在保育士の発掘は、これからの多様な保育環境を支える先駆的な事業であるため、引き続き、フォローアップ研修等の充実により、支援員の資質向上に努めてほしい。さらに、復職への不安を払拭するような情報提供について、必要な情報（保育園、病児保育園、ファミリーサポート、再就職、両立支援制度など）が多岐に渡るが、保護者が必要とする情報をできるだけ一度に聞けるような場が提供されることを望む。

各種特別保育が実施され、多様化する保育ニーズに対応がなされており、安心して子育てができる環境を整えていることは評価できる。また、老朽保育園等の整備や安全・安心で快適な保育環境の整備により、保育園定員が増加しており成果が認められる。

放課後発達支援コーディネーターの配置は、児童クラブを運営する上で、児童厚生員にとって心強いことから、配置強化について検討してほしい。また、配慮を要する児童が増えているため、児童厚生員への研修の実施に加え、特に支援が必要な児童に専門知識を持つ担当者を派遣するなどの対応を検討してほしい。

子育ての駅を運営するにあたって、様々な年代の市民から子育ての駅サポーターとして協力を得るなど、市民参加型の運営がなされている点については評価できる。

「親も育つ子育てセミナー」や「NPプログラム講座」など子育て講座が充実しており、学びの継続も図られている。また、子育てに父親が参加することが当たり前になった今の時代に沿った、父親向けの講座を開催している点も評価できる。

赤ちゃんとのおふれあいを通じて命の大切さを学ぶ「思春期向け次代の親育成事業」が次第に定着してきていて、子どもたちが将来、良き親となるための有効な事業であることから事業の継続を望む。

3 質の高い教育の推進

「熱中！感動！夢づくり教育」により、子どもたちの社会性やコミュニケーション能力、ふるさと長岡への愛着や誇りなどが育まれてきており成果を挙げている。また、各機関が連携して事業に取り組んでいるところや広報活動の工夫により、広く市内外に周知され浸透が図られているところが評価できる。

教員サポート錬成塾や要請研修など多様な研修の場が用意されており、教職員の人間性や資質・指導力の向上が図られ、わかる授業の実現につながっている。

「地域連携フォーラム」や「いきいき教育推進懇談会」の実施により、地域全体で子どもたちを育て見守る連携意識が醸成されてきている。また、「まちの先生」などを活用して、様々な分野から、学校外の人材を柔軟に活用しているところが評価できる。一方で、今後はNPO法人や様々な分野において長岡で活躍している団体の活用も検討してほしい。

「ながおか未来塾」については、他校の中学生と交流しながら志についてじっくり考える素晴らしい機会であり、中学生の頃から広い視野で物事を見られるような機会を与えることは重要である。また、「長岡企業を学ぼう」事業において、キャリア教育の中で地元で活躍しようとする志について考える機会を与えることは評価できる。

大規模改修やトイレ改修など安全・安心で快適な教育環境整備に努めているが、近年の夏は猛暑が続いていて、授業中の熱中症予防のためにも早期の冷房設備設置について、早期完了を望む。

通学路における児童・生徒の安全確保については、地震や風水害など自然災害時における危険箇所等を把握することが大切である。今後は、把握した危険箇所等を子どもたちに周知することや地域全体で情報を共有できるシステムの確立が求められる。また、不審者情報等の報告について、最近は凶悪な犯罪等も起きているため、リスク対策として、各学校における保護者への情報提供のルールを統一させることを検討してほしい。

食物アレルギーへの対応については、一人ひとりの対応が必要であり、教職員を対象に研修を重ねることは良い取組である。今後は、子ども自身にも食物アレルギーの知識を深めさせる取組を進めていく中で、相手の立場を理解し思いやりの心が育つきっかけとなることを望む。

生徒指導上の多様な問題に積極的に対応する体制が整えられている。また、「子どもふれあいサポート事業」では、「未然防止、早期発見、即時対応」の視点を大切にし、専門家も含めた質の高いきめ細かな対応がなされている。

介助員や特別支援アシスタントが各学校に配置され、人的支援の充実が図られており、今後も一層の充実を望む。また、インクルーシブ教育は、人権教育にもつながる大事な視点であり、先駆けてきめ細かな対応がなされている。

子どもの高校進学希望が多様化し、私学進学希望者も多い状況の中で、学費助成が行われていることは保護者の経済的な負担の軽減につながっている。また、私学運営費補助金は、市内の私立高等学校の経営の健全性を高めることから継続を望む。

「長岡市SNSセーフティープログラム」に基づき、多くの研修会や講座が開かれ成果を上げている。また、プログラムに基づく実践について、学校だけでなく、PTA連合会と連携したり、子育て世代にまで広げたりしているところは評価できる。

4 生涯にわたるまなびの場の充実

生涯学習の充実については、教育振興基本計画にもあるように、まちなかキャンパス、図書館、博物館など各施設の連携が重要であることから、各施設の特色を生かした展示の充実や企画展の工夫と充実が望まれる。また、中央図書館の貴重な資料について、時代に合わせたデジタル化を進めているところが評価できる。

新たなまちなか図書館の整備については、長岡の歴史を振り返る中で、とても意味のあることであり、「人づくり・学び・交流」の拠点となるよう、様々な分野から意見をもらいながら検討されることを望む。

中央図書館では、来館者の視点に立った学習環境の整備に努めており、さらに美術センターや栃尾美術館の企画展も充実していて評価できる。中でも、栃尾美術館の観覧者数の増加は著しく、努力の成果が認められる。また、美術センターは、自主企画展の開催や、芸術活動発表の場として広く市民に貸し出しを行っており、文化芸術活動の普及に役立っている。

